

夢咲かせよう 立志の丘で

平成26年7月17日
No.14

秋田県中学校総合体育大会 結果

7月12日(土)～14(月)に各会場で行われた全県総体の結果をお知らせいたします。各監督のお話を聞くと、あと一步のところだというのが、ほとんどでした。どの試合でも自分たちの力を信じて、試合を投げたり、あきらめたりする選手は皆無だったということでした。

◎ バスケットボール (男子) ベスト8

1回戦 西仙北○61-45●大館第一
準々決勝 西仙北●48-66○山王

◎ ソフトテニス (女子) ベスト8

団体戦
1回戦 西仙北○2-1●仁賀保
2回戦 西仙北●0-2○増田
個人戦 柳葉さくら・武藤緋色組 惜敗
小笠原未久・進藤恵実香組 3回戦惜敗

◎ バドミントン

団体
男子 3位
1回戦 西仙北●1-2○岩城 (美郷が優勝)
女子
1回戦 西仙北●1-2○岩城 (岩城が優勝)
個人戦 女子ダブルス 3位
男子 シングルス, ダブルス 惜敗
女子 シングルス 惜敗
ダブルス 後藤杏樹, 齋藤愛組 第3位
(東北大会進出をかけた試合では惜敗。)

◎ 陸上競技

走り幅跳び 佐々木聖南 4m66 予選通過
決勝 4m05 ベスト12
低学年女子400Mリレー予選3組 4着通過
(京極綾香, 斎藤菜摘, 田村紬寧, 佐々木舞央,
高橋奏子, 佐藤愛美)
準決勝 3組 4着 56'90 敗退
共通女子400Mリレー予選6組 7着55'69敗退
(後藤爽華, 佐々木聖南, 長谷川華鈴, 齋藤藍実,
堀江香那)
四種 長谷川華鈴 1712点(自己ベスト)13位
ハードル18秒67, 高跳び1m30cm,
砲丸投げ8m22, 200M30秒22
共通女子100M予選 齋藤藍実 3組5着14秒41敗退
100MH 予選 堀江香那 1組5着18秒62敗退

◎ 卓球

個人戦 星宮朋貴●2-3○桜中

2年生 職場体験

7月15日(火)～17日(木)までの3日間、西仙北、神岡の各事業所31か所で、2年生62名による職場体験を行いました。

初日は、各事業所の社長さんや担当の方から説明を受けたり、一日職場にある宝物を探しなさい、などの指示を受けたり、事業所固有の仕事ははじめとなっております。



2日目の午後にはわか雨が少し降りましたが、それ以外は好天に恵まれ、清々しい中での職場体験となりました。



終わってから、各事業所から評価が届きます。自己評価とどれだけ異なっているか、職場体験を振り返ってみることも学習の一つだと思います。

地域の皆様には、毎年、この時期、本校の職場体験にご協力くださり、誠にありがとうございます。来年もよろしくお願いいたします。

学校評議員会 開催

7月14日(月)、地域の4名の学校評議員をお迎えし、学校評議員会が開催されました。5校時に授業参観をしていただき、その後4時まで授業参観の感想、学校経営等についての質疑応答、協議がありました。

評議員の皆さんからは、生徒の地域での様子や、日頃のがんばりについて周知しているとお褒めの言葉をいただきました。

また、課題等も話され、教育を進める上で、全職員で考えていくことにしております。次回は、2月となります。

平成26年度 思春期ごろの健康講演会

今年も1年生を対象に、標記講演会が、7月16日(水)5時5分目に本校体育館で開催されました。

講師は、臨床心理士の浅沼知一先生とアシスタントで、心の教育相談員の佐藤のり子先生です。

はじめに、浅沼先生から、「思春期の心とからだ～対人関係について考え、感じてみよう」というテーマで説明がありました。レジュメが配布され、次の内容について解説されました。

- A) 思春期の対人関係・コミュニケーションについて
- B) 何の為にコミュニケーションを学ぶのか？コミュニケーション能力を高めるには？

特に、A)では、「傷ついて 気付いて 築く 人間関係」という言葉が印象的でした。B)では、「何を話すか」も大切だが、「どう話すか」が、より重要！という言葉を選びました。

次に、コミュニケーションの練習として、二人一組になり、浅沼先生とのり子先生が最初にロールプレイング(役割演技)の手本を示し、そのことについて生徒たちが実際にやってみる、ということを行いました。のり子先生は、同じ先生のはずですが、浅沼先生に、〇〇のように、△△の場合は、と、いろいろなパターンで話しかけ、全く異なる人格のように演じていました。



同じことを言っても、それが嫌みだったり、ストレートに本心が出ていたり、斜に構えて話してみたり、と普段私たちが話している何気ない言葉でも、相手にとっては、喜ばしい言葉だったり、なんで素直でないんだろう、と思わせる言葉だったり、二人のロールプレイングを見ていて思いました。

最後に、4人の感想発表がありました。どの生徒も、コミュニケーションについて、実際にやってみてためになった、今後の生活に生かしていきたい、と感想を述べてくれました。

少々暑い体育館でしたが、ほとんどの生徒が最後まで真剣に取り組んでくれました。

第64回大仙市” 社会を明るくする運動” ビデオと講演の集い

7月16日(水)、大仙市「神岡農村環境改善センター」で「第64回大仙市” 社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～『ビデオと講演の集い』」がありました。

席上、本校の長谷川華鈴さん(3年生)と南外

中学校の生徒作文発表がありましたので、長谷川さんの作文を紹介いたします。

「キャラメルおじさん」

大仙市立西仙北中学校
3年 長谷川華鈴さん

私の家から、真っすぐ百メートル先に浮島神社があります。参道だったという道は、今はなんの面影もありません。ただ、自動車が通るにはせまいという感じです。

浮島神社は菅江真澄の道として知られていますが、私たち刈和野で育った人皆は、綱引きの網を奉納する場所というイメージの方が強いです。そんな神社にも守られて8年間通学しています。

そして、そこから百メートル位行った所に、私たち子どもをずっと見守ってくれているキャラメルおじさんの家があります。

キャラメルおじさんと初めて会ったのは、小学校に入学してすぐの頃です。朝は集団登校で「おはようございます」「おはよう、行ってらっしゃい」と言って私たちを見送ってくれました。帰りは「帰ってきたが～、来～い」と言って、私たちに冷たい水を飲ませてくれました。昔の話や、おじさんが船乗りをしていた時の話などを毎日のようにいろいろしてくれました。帰りにキャラメルをくれます。それから、私たちはキャラメルおじさんと言うようになりました。

そんな時事件が起こりました。私と友達がキャラメルおじさんの家に寄り道しているということを、小学校の先生に注意されました。友達の母と私の母は、小学校の先生にキャラメルおじさんのこれまでのことを話したそうです。私の姉、兄よりももっともっと大きい兄さん、姉さんたちも見守られていたこと、地域に見守りができる前から私たち子どもを見守っていたことです。

世の中では、私たち子どもが巻き込まれる恐ろしい事件がたくさん起きています。そんな中、よその子どもを危険から守り、成長を見守ってくれているおじさんに、私はとても感謝しています。

おじさんは今は80歳を過ぎた高齢者ですが、今もまだ地域の子もたちに声をかけ、私たちに安心を与えてくれています。不審者が出て、猿が出て、地震が起きても、おじさんの家に助けを求めに行くことができます。

おじさんに今まで私たちが教えていただいたことを忘れず、これから少しずつでも地域に恩返ししていかなければいけないと思います。

